【1面から】　暮らしと一直線でつながっています」と強調。「みなさんの手の中にある大きな力でこそ、政治は変えられる。社会は変えられる。その気持ちをつなげて、今の政治を変えていこう」と呼びかけました。

たなべ氏は「戦争法を廃止する、戦争する国づくりは許さないと正面から堂々と掲げて論戦し、県民のみなさんに訴えているのが共産党です」と力説。

「平和の道をとことん追求する共産党が総選挙で伸びてこそ、平和の思いを国会に届け、実現する確かな力になる」と訴えました。

1区で候補者を擁立
中谷県委員長に聞く

Q）総選挙に向けて香川1区で共産党候補を擁立した理由は？

A） 自民党総裁選挙が終わればすぐにでも総選挙があると言われています。

岸田政権は、裏金事件や経済無策、戦争国家づくりなど、危険で汚れた政治をつづけてきましたが、ついにゆきづまり政権を投げ出しました。

首のすげ替えでなく自民党政治そのものを変えるためには、日本共産党の議席を増やすことが必要です。

とりわけ国会議員の議席空白の四国で、白川さんを国会へ送ることは、日本と四国の政治の流れを変える大きな力となります。

香川1区の候補者が決まったことで、すでに活動している比例区の白川さんと2区の石田真優、3区の笹井孝志候補とがスクラムを組んで、日本共産党の躍進を生み出したいと思います。

Q）たなべ候補はどんな人ですか。

A） たなべさんはこれまで3回、参院選挙の候補としてたたかってきました。2016年参院選挙では全国で唯一、日本共産党が野党統一候補となり10万4239票（得票率26・1％）を獲得しています。東部地区委員長として、県民のくらしや平和の願いを実現するために誠実にがんばっていて、市民連合のみなさんとも街頭から「戦争法をなくそう」と訴えてきました。

Q）香川1区の野党共闘はどうなりますか？

A） 香川1区では10年間、野党共闘をすすめるために党の候補者を立ててきませんでした。しかし、立憲民主党は代表選挙の中で「戦争法」容認の議論をおこない、香川県内でも、立民党が高松港の軍港化に賛成したり、県連代表代行である富野和憲県議が「四国防衛議員連盟」に参加したりしています。「戦争法廃止」という野党共闘の原点が壊されている中で、共産党として、平和を守る責任を果たすために候補者を出すことを決めました。

日本共産党を躍進させて、野党共闘の再構築をしたいと思います。

白川氏が集いで訴え
屋島・古高松で後援会発足

日本共産党の白川よう子衆院四国比例候補は6日、高松市で開かれた集いで、200３年に失った四国比例の議席を必ず回復する決意を訴えました。

この日、同市の屋島・古高松の党後援会が発足し、白川氏を囲む集いが開かれました。

香川県議4期目の途中に辞職し、17年衆院選から四国比例の議席奪還に挑む白川氏は「四国を歩き始めて8年になります」と報告。「四国のみなさんの平和を求める声、生活や命を守れという声をしっかりと国会に届ける。ぜひ一緒に力をあわせて議席を勝ち取ろう」と呼びかけました。

白川氏と2人の県議団で奮闘した樫昭二県議は「共産党が伸びない限り、政治を変えることはできない」と述べ、来たる衆院選での党躍進を訴えました。

後援会の発会式で後援会ニュース第1号が紹介されました。呼びかけ人の一人で編集した河田敬一郎さんは寄せられた原稿に感謝し、「みんなが届けやすくなるように書きました」と話しました。

呼びかけ人を代表して小川治郎さんが「今度こそ白川さんを国会に送るために頑張ろう」と呼びかけました。

県党後援会の太田展生会長があいさつしました。

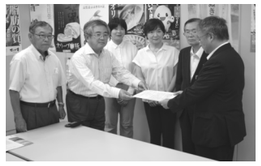
米不足への緊急対応を

日本共産党の白川よう子衆院四国比例候補と香川県委員会は4日四国農政局（高松市）を訪れ、米不足への緊急対応を求める申し入れをしました。また、池田豊人県知事宛てに同様の申し入れをしました。

石田まゆ衆院香川2区、笹井たかし同3区の両候補、樫昭二香川県議、中谷浩一香川県委員長が同行しました。

申し入れは、農家の価格保証や所得補償を行い、農業者が安定した生産を続けられる条件整備のために、国や県が対策をすることなどを要望。

白川氏は、今回の米不足の原因は米の全生産量のわずか3％の需要増によって起きたとして国の農政の根本的な脆弱（ぜいじゃく）性を指摘。「中長期でみて安定して主食の米を、国内で生産・消費できる体制を作らないと、来年も米不足が避けられない」と訴えました。



樫氏は、米の毎年の作付け面積や生産量の減少など、国の責任が大きいことにふれ、「農業の担い手が安心して就農できる環境をつくり、農地保全や後継者づくり等の課題を解決する必要がある」とのべました。

勇気りんりんエッセイ
四国ブロック国政対策委員長　白川よう子

「総選挙勝利四国キャンペーン」が、12日からスタート。28日までの長丁場で四国を1周します。早ければ10月15日から総選挙になる可能性も大きくなってきました。四国の皆さんと心一つに、21年ぶりの四国の議席奪還へ頑張ります！

小選挙区香川1区でも候補者を立てて総選挙に臨む事になり、田辺健一香川県東部地区委員長が予定候補として発表されました。12日に高松市で行われた「四国キャンペーンの出発式」でも一緒にご挨拶。私からは「四国を回りはじめて8年、出会ったお一人おひとりの思いや、四国で暮らす皆さんの暮らしの願いの声を国政と結んで、必ず今の政治を変えていく」決意を語りました。

2日目からは愛媛入り。大洲市でのつどいで西井直人愛媛3区予定候補とご挨拶。その後、質問ドッサリ！南海トラフ、大軍拡、障がい者、イノシシ、ガソリン、消費税、若い世代との関係づくり、党との出会い…大汗かきながら語りに語りました。八幡浜市では読者をまわり入党の訴え。

つどいなどでも「しんぶん赤旗日曜版」の裏金報道が、日本ジャーナリスト会議のJCJ大賞を受賞したことを喜びを持って語っています。今、マスコミ報道は自民党総裁選挙一色の異常さですが、「報道」のあるべき姿を貫いている「しんぶん赤旗」に大きな誇りを感じています。3代続いた自民党の首相を追い詰めてきたのは、赤旗報道や国民世論とともに、日本共産党の論戦や活動であることは間違いありません。

地球の息吹⑦
瀬戸内　大地
栗林公園の大禹謨（だいうぼ）　上

栗林公園の商工奨励館中庭に『大禹謨』という縦五八㎝の石があります。説明板には一六三〇年頃に香東川の改修工事を手掛けた西嶋八兵衛が、治水の成就を願い自筆により川中に祀ったものであると記されています。

治水神　禹王（うおう）

約四千年前、中国の堯帝（ぎょうてい）の時代に、黄河の治水にあたった禹（う）は、「疏（そ）」という、水路を切り拓き、堤防を築いて洪水を流す方法を用いて治水に成功したと伝えられています。

このことから禹（別称：大禹）の、はかりごと「謨」という意味のようです。この功績が認められて、禹は夏（か）王朝の創始者となります。

禹王（尊称）は、人が住める土地をつくり作物の生産性を高めたことにより、治水神としてあがめられると同時に、自ら衣食住を倹約し人民の生活環境の整備を優先する、勤勉で誠実な為政者の象徴ともされます。

空海からの尊崇

空海は、八二〇年頃に決壊した満濃池を修築する際、唐の「余水吐（よすいばき）」という治水技法によったとされますが、これは禹の「疎通」手法そのものです。その後に檀原市（かしはらし）の益田池（ますだのいけ）をつくる工事の次第を記した【4面につづく】